

お知らせ

耳鼻咽喉科から耳鼻咽喉科・頭頸部外科へ

本年5月より、当院「耳鼻咽喉科」の名称が変更となりました。現在は、新たに「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」を標榜し、診療を行っています。診療内容に変更はございませんが、外科手術を含むより充実した医療の提供を目指し、医師・医療スタッフ一同さらなる精進を重ねてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ご存知ですか

大阪鉄道病院ホームページのご案内

大阪鉄道病院のホームページでは、大切なお知らせから各科の診療内容、取り組みのご紹介まで、充実した内容で当院の“いま”をお伝えしています。当『メディカルぽっぽ』のバックナンバーをご覧ください。いただけるページもございます。ぜひお気に入り登録されるなどして、リアルタイムの情報をチェックしてください。

↓アクセスはこちら

<http://www.jrosakahosp.jp>

(QRコード)



コンテンツ(一部)

- 外来受診の方へのご案内
- 入院・面会の方へのご案内
- 病院のご紹介
- 医療関係者の方へのご案内
- 各診療科・部門のご案内
- 採用情報
- 大阪鉄道病院からのお知らせ(最新情報)

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

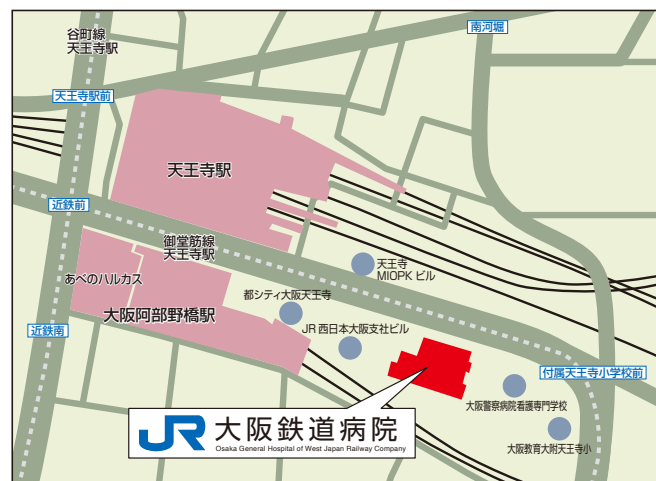
【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休診日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メディカル
よりよい医療の始発駅

ぽっぽ vol.13
2022.6

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

診療科 UPDATE
呼吸器外科

ドクターインタビュー/医長 鈴木 啓史

新任医師のご紹介

チーム医療のご紹介

ようこそ臨床検査室

Radiation Station

栄養室コラム

ぽっぽニュース

ご挨拶

新緑が例年以上に美しい2022(令和4)年の新年度を迎えました。地域の皆様には日頃から当院に、ご指導、ご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

美しい緑とは裏腹に、新型コロナウイルス感染症は現在もまだ収束が見通せない状況です。大阪では3月21日に第6波に伴う「まん延防止等重点措置」が解除されましたが、その後感染者数が下げ止まりしており、今後第7波の到来も危惧されています。現代社会におけるこの世界的な感染災害(コロナパンデミック)は、約1世紀前のインフルエンザのパンデミックであるスペイン風邪とよく対比して語られます。スペイン風邪では、当時の世界人口の3割の約5億人が感染し、5千万人以上が亡くなりました。そして、その収束に約3年間を要したとされています。一方、昨日時点で世界のコロナ感染者数は5億1千万人を突破し、620万人の方が亡くなっています。ワクチンの発達と普及、医療システムの進歩により、重症化率や致死率はスペイン風邪に比して圧倒的に低いようですが、時期的にもスペイン風邪同様、本年度いっぱいでの収束(終息)を果たしたいものです。発生から2年以上が経過し、社会全体が疲弊しています。「コロナ慣れ」など決してありません。

当院は、大阪府のコロナ患者受入れ重点医療機関として収束に向けたコロナ診療を継続すると共に、コロナ以外の通常診療も従来以上に偏りなくより一層力強く担って参る所存です。職員一同「何事も「コロナのせいにせんどころ(〽)」の精神で、今後とも病院機能強化と地域連携推進に努めて参ります。地域の皆様におかれましては、引き続き当院に対しますご指導ご鞭撻、そしてご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

＊一昨年度から、当院がそれまで刊行して参りました2つの広報誌(患者様向け『メディカルぽっぽ』・医療関係者様向け『地域連携ぽっぽ』)を『メディカルぽっぽ』として1本化し、年6回発刊させていただいております。今後とも紙面の充実と情報発信に努めて参りますので、引き続きご覧いただきご意見を賜れましたら幸いに存じます。

2022年(令和4年)4月28日

西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院

院長 上田 祐二

呼吸器外科

患者さんと確かな信頼関係を築き、
全人的な医療の実践を目指します。

肺がん、気胸、縦隔疾患を扱う呼吸器外科。大学病院との連携を行い、エビデンスに基づく診療を行っています。どんなに素晴らしい医療も、信頼関係がなければ成り立ちません。人情味あふれる街・大阪のど真ん中で、日々奮闘しております。

ドクターインタビュー

医長 鈴木 啓史

コロナ禍による「受診控え」の弊害

現在、呼吸器外科手術の約8割以上を、傷が小さく低侵襲な「胸腔鏡下手術」で行っております。病状によって、それが難しいと判断した場合は、大きな傷の「開胸手術」となります。いずれも京都府立医科大学呼吸器科学教室の協力のもと、万全の体制を整えて実施しております。私が赴任した 2018 年から手術件数は順調に伸びていました。しかし 2020 年から広がった新型コロナ禍以降は患者さんの受診控えが続き、手術件数も診療数も大幅に減少してしまいました。

なんといっても無念なのは、受診を先送りにしてしまったことによる病状の進行です。特に肺がんの場合、無症状で進行することが多いのでやっかいです。健康診断等により異常を指摘されたタイミングで間をあげずに専門医を受診していただければ低侵襲な胸腔鏡下手術で根治を目指せたはずのものが、受診を控えてしまわれたために進行してしまい大手術が必要になったり、手が尽くせない状態になったりして、暗澹とした経験がありました。



迅速に呼吸器外科へご紹介を

当院では徹底した衛生管理のもとで診療を行っています。病院にいらっしゃること自体ためらわれるお気持ちはわかりますが、健診での異常や気になる症状がある場合はかかりつけ医の先生を介して、一刻でも早く精密検査をされることをおすすめします。肺がんが疑わしい場合、従来ならまず呼吸器内科にご紹介いただいていたのですが、内科は現在、コロナ対応の負担もありますので、かかりつけ医の先生から直接当呼吸器外科へお声がけくださって結構です。手術の対象外であっても、治療の流れのご説明や段取りは可能ですし、迅速な手術が必要な場合はスムーズに対応することができます。

肺がんの治療に関しては進化も著しく、今では採取したがん細胞から最新の遺伝子診断に基づく治療も発達しています。そのためにも手術で腫瘍を取ることが大きな意味を持ちます。

本来は救えたはずの命が救えないことほど、医師として無力を感じることはありません。それほど「受診控え」がかつてない厳しい状況につながっている事実を、この場を借りて強く訴えたいと思います。

チーム医療の新しいコミュニケーション法を確立

また、肺がん治療においては、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科、病理診断科の4科による連携が欠かせません。しかし、コロナ禍による密の回避から、4科の医師全員が一同に会してカンファレンスを行うということが難しくなりました。そこで私と病理診断科の医師が中心となって、院内のクローズなネットワークを利用し、症例に関わる情報共有と議論ができる方法を提案しました。これにより、対面でのカンファレンスに遜色ない意見交換が可能となり、チーム医療の連携を維持しています。思いがけないメリットとしては、各診療科の医師が閲覧可能な時間に自由にアクセスして見解を書き込む形式なので、私のような子育て世代でも柔軟な対応ができ、医師の働き方改革にもつながっていることがあります。

気胸の治療や禁煙指導にも尽力

呼吸器外科で最も多い疾患は肺がんですが、私自身は研究課題として「気胸」に長く関わっております。再発を可能な限り予防する手術の研究には、大きな手応えを感じています。また、基礎疾患等で手術ができない方への癒着療法についても工夫を凝らして、満足のいく結果に結びつけています。どうぞ安心してお任せください。

それから肺疾患、特に手術適応の患者さんに欠かせないのが禁煙です。手術には最低でも1か月間の禁煙が前提となります。たばこの弊害については、これだけで誌面いっぱいになりそうなお伝えしたいことがあります。ここでは控え目にお伝えします。たばこを吸っておられると痰が増えます。その状態で手術を受けると、痰がますます増えて、呼吸ができなくなったり、肺炎を起こしたりします。肺がんを治すための手術で命を落としてしまうほど、悲しいことはありません。「まだ手術をすると決まったわけではない」状態から禁煙するのは、愛煙家の皆様には非常に辛いと思いますが、早期の禁煙に越したことはありません。想像してみてください、手術が必要となったのに禁煙していなかったために待たされる1か月間の不安を。そうならないためにも、普段からかかりつけ医として信頼されている開業医の先生方から禁煙のお声がけをいただくことが一番ですが、難しい場合は当科で禁煙指導を行います。医学生の時から禁煙推進活動に

最新鋭の胸腔ドレナージ管理装置を導入

呼吸器外科の術後管理に欠かせないのが胸腔内の貯留物を体外に誘導するドレージです。当科では、ドレージに接続する吸引器を数年前に一新しました。コンパクトで扱いやすく、患者さんや医療者にもやさしい吸引・管理装置として、活躍しています。



Thopaz+ 吸引器のメリット



取り組んでおり、禁煙指導には一言を持っております。

外科というと、厳しい、近寄りがたいなどのイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。技術はもちろん、人間性においても信頼をいただき、「この先生でよかった」と言っていただけるような人情味のある医師でありたいと思っています。天王寺という大阪文化の中心地にある当院に赴任してから、ポケッコミのトーク技術も随分と磨かれたように思います(笑)。これからも、患者さんに寄り添って前向きに治療を受けていただけるよう力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっとプライベート情報

妻も医師なので、家事・子育ては二人三脚。たとえば、朝食と子どもたちのお弁当などはほとんど私の担当です。ピアノをならっている小学生の息子と幼稚園の娘がいますが、自宅でのピアノ指導は妻が担当。かなり本格的で全国大会で入賞するほどになりました。ピアノのことは、私は門外漢なのでサポートや送迎係です(笑)。



新任医師のご紹介 大阪鉄道病院に新しい風。

本年4月、新年とのスタートとともに当院に赴任した医師と研修医より、ご挨拶を申し上げます。一丸となってより質の高い医療の提供を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

<呼吸器内科>



医師 戸田 詩織
(とだ しおり)

これまでの内科専攻医として大学病院や市中病院に勤務しておりました。今後も患者さんに寄り添った診療を心がけ、日々精進してまいりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。



医員 永井 貴彬
(ながい たかあき)

まだまだ若輩者ではありますが、患者さんのお気持ちに寄り添った医療を提供できるように日々精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

<消化器内科>

医長 高山 峻

(たかやま しゅん)

食道や胃といった消化管の早期がんの診断や内視鏡治療を専門としつつ、広く消化器全般の診療を行ってまいりました。その経験を生かしつつ、患者さんに寄り添った診療を心がけてまいります。よろしくお願いいたします。



<皮膚科>



医員 後藤 芽以子
(ごとう めいこ)

皮膚疾患でお困りの患者さんに、よりよい医療を提供できるよう努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<血液内科>

医員 曾我部 信広

(そかべ のぶひろ)

地域医療に貢献できるように精進してまいります。修業中の身ではありますが、なにとぞよろしくお願いいたします。



<消化器・一般外科>

医長 大陽 宏明

(たいよう ひろあき)

主に大腸がんの腹腔鏡手術を専門としてまいりました。もちろん、消化器外科全般の経験も積んでおります。日々、最新の技術・知識を得られるように努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

<泌尿器科>

医長 畠中 聡

(はたなか そう)

1年間の大学病院勤務を経て、再び大阪鉄道病院に戻ることができました。泌尿器がん疾患や尿路結石症、生活の質に関わる前立腺肥大症や過活動膀胱など、泌尿器科全般の診療に取り組まさせていただきます。よろしくお願いいたします。



<糖尿病・代謝内科>

部長 最上 伸一

(もがみ しんいち)

レジデント2年、医長7年に続き、8年ぶりに当院に戻ってまいりました。糖尿病は患者さんの自己管理が重要な病気です。我々糖尿病内科医は、適切な薬剤の選択もさることながら、食事や運動等、療養の手助けをするのが重要な仕事と考え、がんばっていききたいと思います。よろしくお願いいたします。



医員 大西 彩加

(おおにし あやか)

昨年度まで京都に勤務しておりましたので、久しぶりの生まれ故郷・大阪にワクワクしています。患者さんとのコミュニケーションを大切に、お一人お一人に寄り添った医療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



<整形外科>



医員 辻本 淳

(つじもと じゅん)

患者さんに寄り添った医療ができるよう、日々、心掛けて診察に臨ませていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



医員 岡 誠

(おか まこと)

「大阪鉄道病院に行ってよかった」と思っていたような治療を心がけ、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

<耳鼻咽喉科・頭頸部外科>

医長 古川 昌吾

(ふるかわ しょうご)

病気を治すことはもちろんですが、それだけにとらわれず、患者さんの人生や生活を豊かに、幸せにできる医師を目指しております。よろしくお願いいたします。



<眼 科>

医員 甲斐 千舟

(かい ちふね)

以前は数学者でしたが、いろいろ思うところがありまして、医療の道を志すことにいたしました。まだ修業中の身ではありますが、患者さんのお役に立てようになんげばってまいります。



<歯科口腔外科>



医師 近藤 敬秀

(こんどう たかひで)

2012年に大阪大学を卒業し、そのまま大学院を修了して6年目になります。外科的手術が必要な症例をはじめ、口腔外科領域の疾患全般について、お困りでしたら是非ご相談・ご紹介ください。

<研修医>

大植 堯文

(おおうえ たかふみ)

これから2年間、研修させていただきます。天王寺に来るのは初めてですが、今後さまざまな縁ができることを楽しみにしております。少しでも地域のみなさまに貢献できるように精一杯がんばります。よろしくお願いいたします。



金 綾希子

(きん あきこ)

生まれ育った大阪で働くことができ、たいへん嬉しく感じています。未熟な身ですが、医療に貢献できるように一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします。



石原 昂季

(いしはら こうき)

大阪公立大学出身です。親しみのある天王寺にある当院で研修を始められることを、嬉しく思います。至らぬ点多々あるかと思いますが、虚心坦懐に学び、成長してまいります。よろしくお願いいたします。



坂井 俊介

(さかい しゅんすけ)

鳥取県出身で、大学から大阪に出てきました。未熟で至らない点もあるとは思いますが、地域のみなさんへの医療に少しでも貢献できるよう励んでまいります。よろしくお願いいたします。



NST(栄養サポートチーム)の活動

栄養は全ての疾患に関係しており、食事は病気の治癒だけでなく、QOLの向上にも大きな役割を果たします。当院では、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・リハビリ技師（言語聴覚士）という多職種で構成された NST(栄養サポートチーム) により、栄養障害の早期発見、栄養療法の早期開始、合併症の減少などを目指しています。

管理栄養士
木村京子

日本糖尿病療養指導士
病態栄養認定管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士



私たちの活動の概略をご説明すると、まず入院される患者さんについて担当看護師が「SGA」という指標により栄養状態を評価し、NSTの対象となる方の候補を絞り込みます。その後、NSTによる回診でご本人にお会いし、病状やご本人の状況を把握して栄養療法が治療効果につながると判断して初めて、NSTが本格的に介入することになります。

介入方法としては、栄養の経口摂取だけでなく、薬剤師が関与する経腸、点滴を含め、さまざまな形があります。週1回のラウンドと月1回のカンファレンスを通じて十分な栄養が摂れないことが何に起因しているのかを追求するとともに、治療の目的を確認した上で、メンバーそれぞれが専門性を発揮してより適切な栄養管理を提案・実践していきます。

食欲の不振は精神的な原因も多く、ラウンドによって、医師のひとことが患者さんのモチベーションを上げるきっかけになったりすることが少なくありません。チームで動くことのメリットは実に大きいと実感しています。また、患者さんの情報をきめ細かに伝えてくれる各病棟のリンクナースも、チームのサポートに欠かせない存在です。NSTの活動は、病院全体の医療の質の改善にも寄与するものと自負しています。これからも力を合わせ、多様な視点から栄養状態の向上を治療につなげていければと思います。



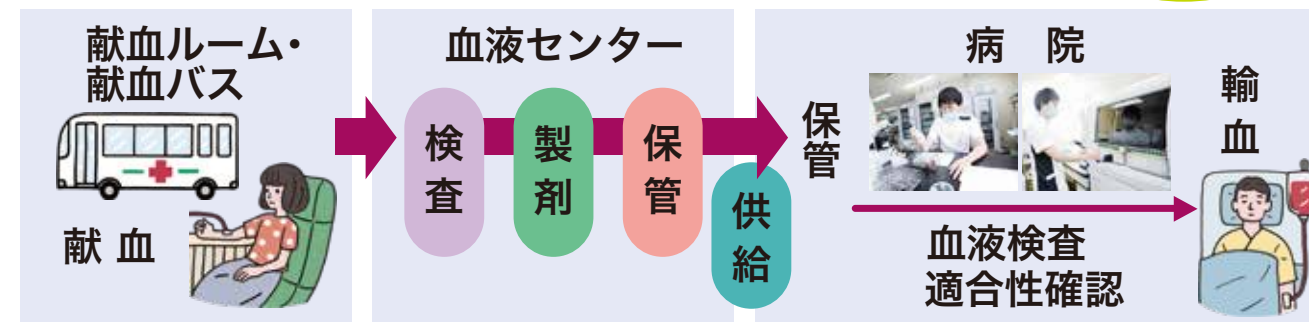
週に1回のラウンドは、NSTの回診資格を得たメンバーで行います。



カンファレンスは、症例検討をはじめ、学会報告や最新情報の交換など、それぞれの視点から多くの意見が飛び交う貴重な場です。

ようこそ臨床検査室へ

【献血された血液のゆくえ】



- 輸血は献血でまかなわれます
- 血液センターで輸血用血液製剤へと加工されます
- 医療機関では患者さんの元に届けるまでの管理を行っています

病気や手術などで血液成分の量や機能が低下し、生命に危険が生じる場合には、不足している血液成分を補充する必要があります。これを輸血といいます。現在の医療技術では、血液を人工的に作ることができません。このため、輸血用の血液製剤はすべて献血された血液からつくられています。

献血された血液は、近隣の血液センターに運ばれます。さまざまな検査で安全性を確認したのち、赤血球、血小板、血漿といった血液成分ごとに製剤化され、医療機関へ供給するまでの間保管されます。また、血漿の一部は製薬企業に供給され、「血漿分画製剤（血漿中のたんぱく質を成分ごとに抽出精製した医薬品）」の原料となります。

当院に供給された血液製剤は、輸血管理室において成分ごとに定められた条件下で保管しています。患者さんの元に届ける前には、「血液型検査（ABO式、Rh式）」や輸血する血液の適合性を確認する「不規則抗体検査」「交差適合試験」などを実施して、安全に輸血医療がなされるように努めています。そして、献血していただいた方の善意を無駄にしないように、製剤の有効期限を常に把握し廃棄率の削減に取り組んでいます。

当院の輸血管理室では、血液製剤が患者さんに届くまでの保管管理や、安全な輸血医療が行われるために必要な検査を担当しています。ここでは、献血から輸血までの道のりを、順を追ってご紹介しましょう。

臨床検査技師
認定輸血検査技師
松本 裕貴

Radiation Station

放射線部門

胃X線検査における発泡剤とバリウムの役割

どうして発泡剤とバリウムを飲むのでしょうか？その役割をご説明しましょう。

＜ある紳士の会話＞

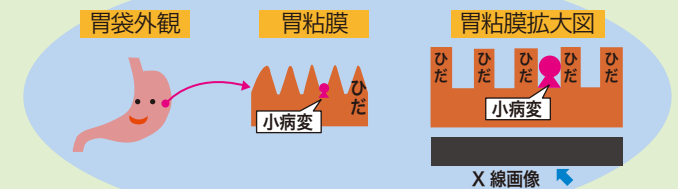
- A「明日なあ、初めて胃のX線検査を受けるねん」
B「へえ〜わしも受けたことあるけど、バリウムと発泡剤っていうのを飲まれたな」
A「バリウムって聞いたことあるわ」
B「飲みにくかったわ。白くてどろっとして、美味しいもんではなかったな」。「でもな、美味しくないのには理由があるらしいで」
A「どんな？」
B「バリウムが美味しかったら食欲が湧いて、胃が活発に動くから胃酸もぎょうさん出て、バリウムがはよう腸に流れ出てしもて検査にならんらしい」
A「そっかあ」
B「胃袋が萎まんようにゲップも我慢せなあかんらしいで」
A「なるほどな。おおきに！ほな明日がんばってくるわ」

検査技師より検査時のアドバイス

- ・バリウムを飲むコップは、ビールを飲む時のように喉ごしでごくごく飲むことです。
- ・ゲップを我慢するコップは、唾を飲み込む、あごを引いて下を向くことです。

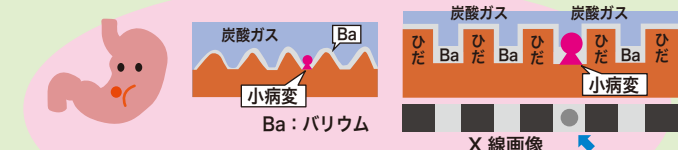


＜もしも発泡剤とバリウムを飲まなかったら＞



ポリプなどの小病変は胃粘膜のひだとひだの間に重なり、隠れています。バリウムおよびガスなしのX線画像では、コントラストが得られず(❌)病変がわかりません。

＜発泡剤とバリウムを飲むと？＞



発泡剤より発生した炭酸ガスによって胃が拡張します。これによって粘膜が延ばされてひだとひだの間隔が広がり、小病変が顔を出します。そのあとバリウムを飲んでいただくと、胃の内側全体に薄くバリウムが付着した状態になります。炭酸ガスはX線の吸収がほとんどないため、周囲の臓器より黒い陰影として、バリウムはX線の吸収が大きいので白い陰影としてX線画像に写し出されます。これらの二重造影効果により、コントラストが得られ(✅)病変を発見しやすくなるのです。

胃の形態の異常もバリウム検査でよくわかるよ！

栄養室コラム

自律神経と栄養

近年、自律神経のバランスが崩れ、なんとなく体調がすぐれないという人が少なくありません。自律神経を整えるためにできることを、栄養面から考えてみましょう。

自律神経を整える栄養素

自立神経の働きをバランスよく整えるために、重要な役割を果たす栄養素をピックアップしました。

- GABA**: 体内において神経伝達物質として働くアミノ酸です。副交感神経の活動が促されるので、心をリラックスさせる作用があると考えられます。
＜多く含まれる食品例＞発芽玄米や味噌、漬物などの発酵食品、トマト
- たんぱく質**: たんぱく質はアミノ酸で構成されますが、そのうち体内で合成されず食事から摂る必要のあるアミノ酸を必須アミノ酸といいます。9種類ある必須アミノ酸の中でも、チロシンとトリプトファンが自律神経を整えるのに役立ちます。チロシン→自律神経を刺激するノルアドレナリンとアドレナリン、快感をもたらすドーパミンをつくります。トリプトファン→精神を安定させる作用を持つセロトニンをつくります。
- カルシウム**: 交感神経の働きを抑制する作用があるため、脳の興奮を抑えます。
＜多く含まれる食品例＞乳製品、小魚、大豆製品、緑黄色野菜
- ビタミンB6**: アミノ酸の代謝に必要なビタミンであり、神経伝達物質の合成に関与します。摂取量が不足すると憂鬱な気分が続く場合があります。
＜多く含まれる食品例＞魚類、レバー、卵、緑黄色野菜
- ビタミンD**: カルシウムの吸収を促します。また、精神を安定させる作用を持つセロトニンを調節する作用もあります。
＜多く含まれる食品例＞魚類、きのこ類

セロトニンを増やすには太陽の光を浴びる、よく笑うことも大切です

自律神経とは？

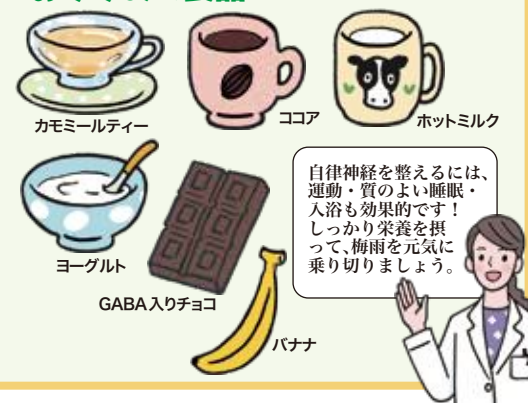
自律神経は、内臓の動きや代謝、体温などの機能をコントロールしている神経のことで、「交感神経」と「副交感神経」に分けられます。



活動している時、ストレス・緊張している時に働く、興奮の刺激を伝える神経。心拍数の増加や血管収縮、瞳孔散大や汗の分泌が増加する一方で、腸の運動や粘液分泌は抑制に働きます。

休息・身体の修復をしている時、リラックスしている時に働く神経。筋肉が緩み、血管が広がって、呼吸はゆっくりになり、内臓の動きは活発になります。

自律神経を整える栄養素を含むおすすめの食品



自律神経を整えるには、運動・質のよい睡眠・入浴も効果的です！しっかりと栄養を摂って、梅雨を元気に乗り切りましょう。